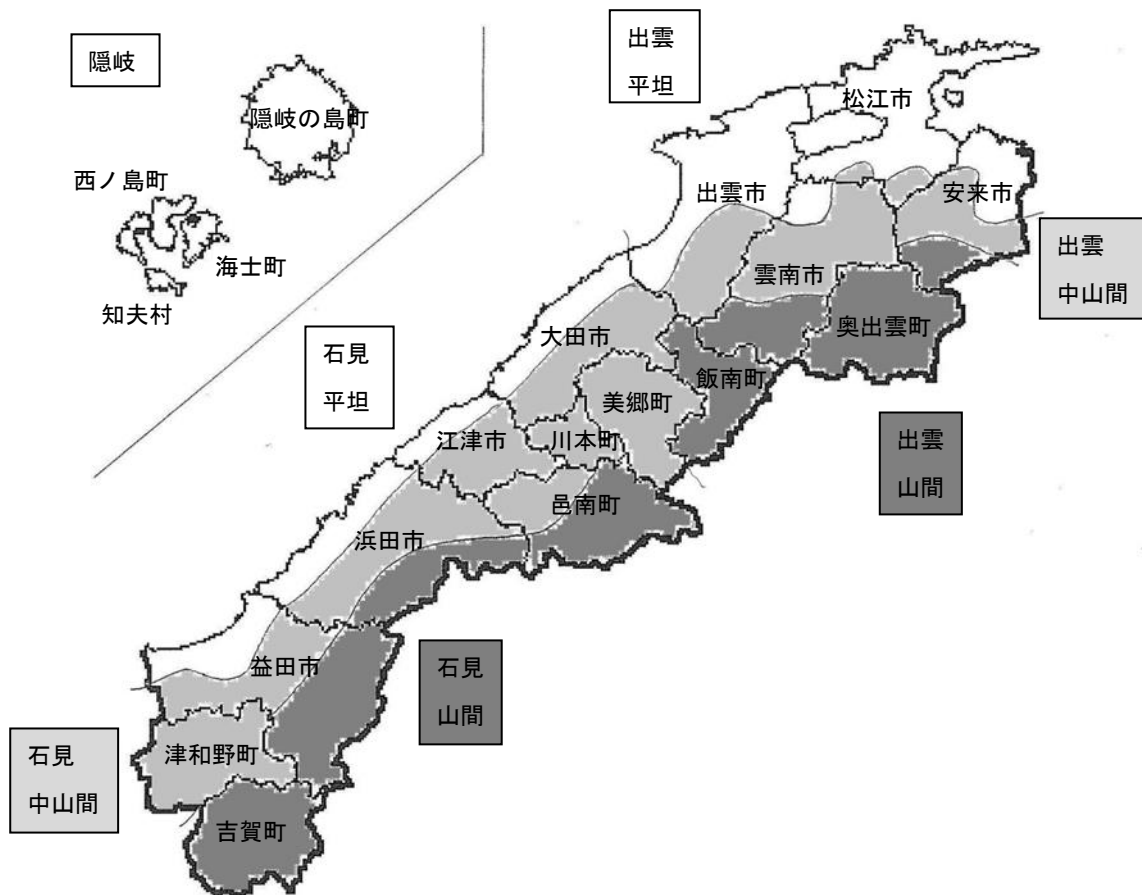


Ⅱ 栽培技術

1 稲作地帯区分と適応品種・作期

(1) 稲作地帯区分と適応品種



第1-1図 稲作地帯区分図

第1-1表 地帯区分別市町村と適応品種（うるち米）

地帯区分	標高	該当市町村	ハナエチゼン	つきあかり	つや姫	コシヒカリ	きぬむすめ
出雲 平坦	100m 以下	松江市、出雲市、安来市、雲南市	○	○	○	○	○
出雲 中山間	100～ 300m	松江市、出雲市、安来市、雲南市	○	○	△	○	○
出雲 山間	300m 以上	奥出雲町、安来市、雲南市、飯南町	○	○	△	○	△
石見 平坦	100m 以下	浜田市、益田市、大田市、江津市	○	○	○	○	○
石見 中山間	100～ 300m	川本町、美郷町、津和野町、浜田市、益田市、大田市、江津市、邑南町	○	○	△	○	○
石見 山間	300m 以上	吉賀町、浜田市、益田市、邑南町	○	○	△	○	△
隠岐		隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村	○	○	○	○	○

注) ○が推奨品種、△が補完品種。

(2) 県内の主な作付品種の特徴

ア 一般うるち品種

ハナエチゼン

出穂期は7月中～下旬で「コシヒカリ」より9日程度早く、成熟期は8月中～下旬の極早生種である。草型は短稈で、穂長も短く、穂数がやや多く、粒着は中位の偏穂数型である。

収量性は高い。玄米は粒が大きく丸みがあり、心白、腹白などの発生は少なく、品質、食味ともに良好である。

いもち病耐病性は、葉いもちに強く、穂いもちにやや強く、稈長が短いため耐倒伏性も強である。さらに穂発芽性がやや難であるため品質の低下は少ない。

適地は、平坦部の地力中庸からやや肥沃地である。高温下の登熟であることから、刈遅れによる品質の低下を防ぐため、適期刈取に努める必要がある。

つきあかり

出穂期は7月中～下旬で「コシヒカリ」より5日程度早く、成熟期は8月中～下旬の極早生種である。草型は短稈で、穂数はやや少ないが穂長は長く、粒数は多い偏穂重型である。

粒大が大きく収量性は高い。心白、青未熟、その他未熟などの発生が多く品質はやや劣るものの、炊飯米の外観、食味は優れ、柔らかく粘りがあり、食味評価は高い。

いもち病耐病性は、葉いもちに強く、穂いもちにやや強い。稈長は短いが一穂粒数が多く千粒重も大きいいため、穂重が重くなり倒伏した事例がある。穂発芽性は難である。

適地は、平坦部～中山間部の地力中庸から肥沃地である。茎数が増えにくい品種であることから、穂数確保のため疎植やきついで中干しは行わず、間断灌水に努める。また、高温下の登熟となることから、刈遅れによる品質低下を防ぐため適期刈取に努める。

出芽の際、育苗器内で長期間積み重ねると中胚軸（以下「メソコチル」と記載）が異常伸長することがあるので、適切な時期にハウス内等に並べる。メソコチルが伸長するとマット強度が低下して、移植時に苗がばらけやすくなることで浮き苗が発生しやすく、欠株が増加する。

つや姫

出穂期は7月下旬～8月上旬、成熟期は8月下旬～9月中旬の極早生種である。

草型は中間型で、葉が直立し受光態勢が良い。稈長は短い。

収量性は高い。品質、食味ともに良好である。

耐倒伏性は強い。葉いもち抵抗性はやや強、穂いもち抵抗性は中である。穂発芽性はやや難である。

適応推奨地域は平坦部であり、5月上～下旬移植に適する。

コシヒカリ

出穂期は7月下旬～8月上旬、成熟期は平坦部では8月下旬、山間部では9月中旬の極早生種である。

草型は、長稈で穂数のやや多い中間型である。葉色はやや淡く、葉幅は中位である。穂長は中位で粒着はやや密である。

収量性は高い。玄米は心白、腹白が少なく品質、食味ともに良好であるが、平坦部では5月中旬までの田植期において、登熟期間の高温により乳白粒が多発し、品質が低下しやすい。

いもち病耐病性は、葉、穂いもちともに弱く、長稈のため耐倒伏性も劣り、栽培上の安全性は必ずしも充分でないが、穂発芽性は難で、耐冷性や白葉枯病に強いなどの優点もある。

適地は、灌排水が自由にできる乾田から半湿田である。生育後期に地力窒素が急激に有効化するような肥沃田や、基盤整備後初年目の作付けは避ける。

低温発芽性が劣るので、育苗に際しては浸種、催芽を充分に行う必要がある。

きぬむすめ

出穂期は8月中旬で「コシヒカリ」より13日程度遅く、成熟期は9月下旬の早生種である。

草型は中間型で穂数はやや少なく、穂長はやや短いが一穂粒数は比較的多い。

収量性は比較的高い。玄米は粒形、粒大ともに中程度で、外観品質は良好である。炊飯白米は外観が良く、粘りがあり、食味は良好である。

いもち病耐病性は、葉、穂いもちともに中程度である。稈長は「コシヒカリ」と「ハナエチゼン」の中間で耐倒伏性は中である。穂発芽性は中で、白葉枯病にやや弱い。

適地は平坦～中山間部の地力中庸からやや肥沃田で、穂数確保のため極端な遅植は避ける。種籾は比較的発芽しやすいので、育苗に際しては浸種、催芽の日数、時間に注意する。

イ 酒造好適品種

五百万石

出穂期は7月下旬、成熟期は9月上旬の極早生種である。草型は、稈長はやや短く、穂長はやや長く、穂数はやや少ない穂重型である。粒着は中であるが、登熟歩合が高く熟色は良い。

収量性は中程度である。玄米はやや円味を帯び大粒で、粒色はやや淡い。心白は粒の中央に位置し、その横断面形状は中間型であるが発現歩合は高い。

いもち病耐病性は、葉いもちにやや弱く、穂いもちには中程度である。耐倒伏性は強であるが、耐冷性及び低温発芽性は劣る。また、穂発芽性はやや難である。

適地は標高 400m以下の山間から中山間部の地力中庸田で、育苗に際しては浸種、催芽を入念に行う。耐冷性が劣るため極端な早植は避ける。

神の舞（かんのまい）

出穂期は「五百万石」に比べて1日遅い極早生種である。草型は、稈長はやや長く、穂長はやや短く、穂数はかなり少ない穂重型である。粒着は中位で登熟歩合は高い。

収量性はやや高い。玄米は、円味を帯び大粒で粒色は「五百万石」よりやや濃い。心白は粒の中央部に位置し、その横断面形状は中間型であり、発現率は高い。

いもち病耐病性は、葉いもちはやや弱く、穂いもちにはやや弱く、穂発芽性はやや難で、長稈のため耐倒伏性はやや弱い。耐冷性はかなり強い。白葉枯病には弱い。

適地は山間から中山間部の地力中庸田で、「五百万石」が不適地とされる標高 400m以上の高冷地でも栽培可能である。倒伏しやすいので極端な多肥栽培は避ける。

佐香錦（さかにしき）

出穂期は「五百万石」に比べて4日遅い極早生種である。草型は、稈長はやや長く、穂長はやや短く、穂数が中位の偏穂重型である。

収量性は中程度である。玄米は中位の粒形をもち、大粒である。心白は粒の中央部に位置し、その横断面形状は中間型であり、発現率は高く、心白発現の揃いが良い。吟醸酒向き酒造好適米として利用される。

いもち病耐病性は、葉いもちにやや弱く、穂いもちはやや弱く、耐冷性も十分ではないが、耐倒伏性は優れる。

適地は標高 200m～300mの中山間部の地力中庸地で、早植栽培に適する。

いもち病にやや弱いので、多肥栽培は避け、基幹防除の徹底に努める。白葉枯病に弱いので、

常発地での栽培は避ける。耐冷性がやや劣るため、極端な早植は避ける。

改良雄町

出穂期は8月中旬、成熟期は9月下旬の中生種である。草型は、稈長、穂長が長く、穂数は中位の偏穂重型である。

収量性はやや低いが、玄米は大粒で、品質は良好である。心白は粒の中央部に位置し、その横断面形状は菊花状で発現率は高い。吟醸酒向き酒造好適米として利用される。

いもち病耐病性は中、白葉枯病耐病性も中である。長稈であるため倒伏には弱い。

適地は山間から中山間部の地力中庸田で、肥沃地での栽培は避ける。早植栽培に適するが、倒伏に弱いので多肥栽培は避ける。

縁の舞（えにしのみい）

「改良雄町」に比べて出穂期は4日程度、成熟期は3日程度早い早生種である。草型は、穂数がやや少ない穂重型である。

収量性は高く、玄米はかなり大粒で品質は良好である。心白は粒の中央部に位置し、その横断面形状は線状で、発現は良好である。高度搗精時にも碎米が少ない特徴がある。

いもち病には弱いので多肥栽培は避け、基幹防除を徹底する。

ウもち品種

ヒメノモチ

出穂期は7月下旬、成熟期は平坦部では8月下旬、山間部では9月上旬で、「ハナエチゼン」より出穂期が2～6日遅い極早生種である。草型は、中稈で穂数のやや少ない偏穂重型である。葉は直立型で草状は良く、穂は比較的長く粒着はやや密で熟色鮮麗である。

収量性は高い。玄米は粒形、粒大ともに中位で、品質、食味はおおむね良好である。

いもち病耐病性、耐冷性及び耐倒伏性は強いが、白葉枯病には弱く、穂発芽性は易である。

適地は山間から中山間部の地力中庸田で、早植栽培に適する。穂発芽しやすいので適期刈取を心がける。平坦部での栽培は避ける。

うるち品種との識別性に欠けるので、混種が起らないよう十分な注意を要する。

ココノエモチ

出穂期は「ヒメノモチ」より5日遅い極早生種である。草型は短稈で、穂数はかなり多い偏穂数型で、収量性は高い。

玄米は円味を帯び、やや小粒である。粘りは強く食味が良好で、餅の外観も優れている。

いもち病耐病性は中～やや強で、耐倒伏性は強く、耐冷性はやや強い。穂数が多いため、紋枯病にかかりやすい。穂発芽性は極難である。籾の先端は赤褐色で他品種との識別性が高い。

適地は地力中庸から肥沃地で、早植栽培に適する。極端な多肥栽培は避ける。

ミコトモチ

出穂期は8月上旬、成熟期は9月下旬の早生種である。草型は中間型で、稈長は「ヤシロモチ」よりやや短く、穂長及び穂数は中位で、1穂粒数はやや少ない。

収量性は高い。玄米は中型の大粒で、品質はおおむね良好である。餅は外観が白く、食味は良好である。

いもち病耐病性はやや弱～中、白葉枯病耐病性は中である。耐倒伏性は「ヤシロモチ」より強い。穂発芽性は中である。籾の先端は褐色で、芒がやや長いのでうるち品種との識別性が高い。

適地は、平坦～中山間部の地力中庸～やや肥沃地で、早植～普通期栽培（5月上～下旬植え）に適する。（中山間部とは、標高300m以下。ただし、8月中～下旬の1日の平均気温が20℃を下回る地域では、作付けを避ける）

（3）種子更新

水稻品種は、突然変異、自然交雑、作業中における異品種の機械的混入など、種々の原因によって形質が劣化しやすく、自家採種を続けると個体変異が大きくなり、収量、品質、耐病性などに影響を与える。

特に作業の機械化が進む中で、きめ細かな採種が望めない現状であることから、自家採種の継続によるマイナスはより大きいものと考えられる。

種子更新は、こうした障害を防ぐ唯一の方法であるとともに、栽培履歴の明確化や表示の的確化がより重要となってきた昨今、産地銘柄の評価向上を図る上からも欠くことができなくなっている。

（4）地帯別・品種別田植時期

田植時期は、従来、早期栽培が4月下旬～5月上旬、早植栽培が5月上～中旬で、中山間から山間にかけては適期幅が狭くなるということで定められていたが、近年の気象温暖化により平坦部「コシヒカリ」を中心に乳白粒等の品質低下が常発するようになってきたことから、平坦部「コシヒカリ」については5月下旬田植を推奨している。

第1－2表 地帯別・品種別田植時期

地帯区分	標高	ハナエチゼン	つきあかり	つや姫	コシヒカリ	きぬむすめ
平坦 隠岐	100m以下	4月下旬～ 5月上旬	4月下旬～ 5月上旬	5月上 ～下旬	5月下旬	5月上～ 下旬
中山間	100～300m	5月上旬	5月上旬		5月中～ 下旬	5月上～ 下旬
山間	300m以上	5月上旬	5月上旬		5月上旬	

注) もち米、酒造好適米については、極早生は「ハナエチゼン」に、早生、中生は「きぬむすめ」に準じる。